

集会宣言(案)

昨年私たちの集会から1年。世界の話題はあまねく新型コロナウイルスの感染拡大を数えることに終始しました。ウイルスの猛威は誰にでも「平等に」襲い掛かっているように見えつつ、一方で、社会の矛盾や格差なども顕在化しました。不安や恐れは、他者への非難や、あらたな差別さえも生み出す可能性があります。こうした時代にこそ、これまで見過ごしてきた場所で、努力を重ね、時には痛みに耐えていた人々に思いを寄せ、共感を持って助け合える方向を見つけていくべきです。

インターネットの普及は瞬時に全世界をつなぎ、自分たちが暮らす足元から地球の裏側までも見通すことができます。私たちは「外出制限」という非日常の閉じられた空間で、遠くの人とつながり、未知の情報を手に入れます。地球は小さく狭くなったのだと言えるでしょう。けれどもそうした電子空間で悪意や中傷、差別的な書き込みも後を絶たず、その意識は40年も50年も前の、あるいは1922年の水平社創立を考慮するならば100年も昔の差別と変わらない意識の場合さえあります。かつての過ちが、新たな装いのもとに同じように繰り返されているのです。私たちは、今もう一度「人権」という物差しで、自分たちがどれほど進化したのかと計ってみたいのかなのかもしれない。

成長し発展しようとしてきた人間たちの営みは、石炭を掘り、石油を掘り、工場を建て、原子力発電所を建て、森林を切り出し、多くの動植物の命をこの地球上から絶滅させています。さらに核物質という人間の手に余るエネルギーを利用しようとする試みは、核兵器の開発による多大な戦禍をもたらし、また10年前、福島第2原子力発電所の取り返しのない事故を引き起こしました。その教訓も忘れてはなりません。

自分たちが住まうこの大地を、末永く持続可能な状態で他の生き物と共に暮らしていくためにどのように守っていくべきか、今こそ真剣に考えていきましょう。

私たちは共生・協働の社会創造に向け、これからも歩みを続けていきます。

2021年2月23日

第52回人権交流京都市研究集会 参加者一同